



地域の交通安全

今回は、交通指導員をはじめ、町の交通安全に尽力されている地域の方々についてご紹介します。

町内で行われている献身的な活動をとおして、「交通安全」に関して私たち一人ひとりができることを考えてみませんか。



問合せ…くらし安全課生活環境係 【☎35-1226】

事故が最も多い登下校

警察庁の調査によると、小学生の交通事故による死傷者数が最も多い時間帯は登下校中です。特に朝の7時台と夕方の15時台～17時台が多く、中でも小学1年生の歩行中の死傷者数は小学6年生の8倍にもなります。

上里町では、交通事故の多い朝の時間帯に交通指導員による立哨指導を行っています。また、下校時には町内各地区の見守り隊のボランティアにご協力いただき、子ども達の安全を確保しています。

交通指導員とは？

上里町交通指導員とは、町長から委嘱され、警察や学校などと連携して、児童生徒の安全の確保や交通事故の防止、交通安全の意識を高めるための活動を行っています。

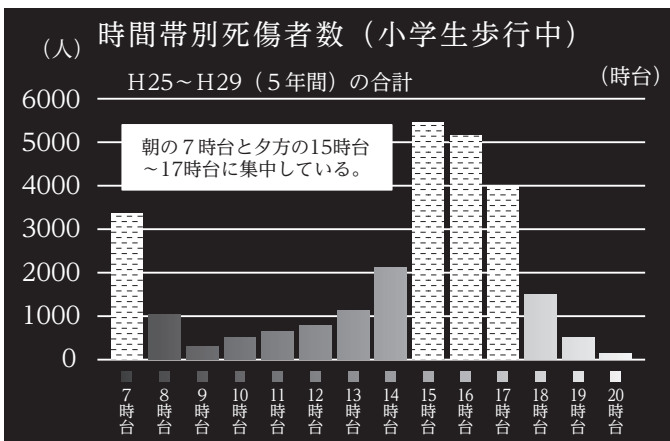
また、交通安全運動や地域行事での交通整理なども行っています。

現在、上里町では9名の交通指導員が各地域で活躍しています。

交通指導員の「立哨指導」！

交通指導員が行う「立哨指導」とは、交通量の多い交差点などに立って、子ども達が安全に登校できるように声掛けを行い、交通指導をすることです。

天候に関わらず、学校がある日は毎日行っています。



出典：警察庁交通局「児童・生徒の交通事故」より

地域の安全をサポートする 交通指導員

晴れの日も、雨の日も



交通指導員歴6年の金杉正美さん。学校がある日は、毎朝古新田四ツ谷線にある三田西信号機の交差点に立ち、子ども達の安全を守り続けています。そんな金杉さんが交通指導員になっただきっかけは何だったのでしょうか。

「仕事で腰を悪くしてしまい、9か月で3度も手術をしました。仕事ができない状態が続いていたころ、長年交通指導員を続けている叔父の金杉記明代表の勧めで、交通指導員を始めました。初めて交通指導員として沿道に立ったのは神保原地区で、一緒に立っていた先輩の動きを見て立哨指導のやり方を覚えられました。平成25年12月に古新田四ツ谷線が開通後、今の場所に移り活動しています。」と当時を振り返り話してくれました。

見守り隊の協力と信号機の設置

古新田四ツ谷線開通当初は、三田西の交差点には信号機が無く、大変苦労したとのこと。

「朝方の通勤時間帯はドライバーも急いでいるため、子ども達に横断歩道を渡らせているにも関わらず、右折車が自分の真後ろにびったりとせまってくるのが度々ありました。時には、バイクの運転手に大声で怒鳴られることもありましたね。1か月程信号機が無いなかで一人でやっていたのですが、ある時から、地元での見守り活動が始まりました。一人で二方向を見なければいけないかった十字路での指導が、非常に楽になりました。今後も協力してやっていきたいと思っています。その後は、令和元年8月に信号機が設置され、ドライバーからの苦情もほとんど無くなりましたね。」

簡単なようで難しい

「みんなが簡単なルールを守れば交通事故は起きないと思っています。個人個人の意識の問題で自分自身も守れるし、相手を傷つけることもなくなりません。基本的なことを心掛けることが大事。それでも事故は無くならないもので、簡単なようで難しい。」と金杉さんは話します。

入学シーズン

「4月からは新入生が学校に通います。1年生は慣れない通学と長距離の移動で体力的に歩くスピードが遅くなってしまいう子がいまいます。危険がないよう、より注意深く指導していきたいと思っています。」



交通指導員は

こんなこともしています



家庭が育む交通安全

悲しい事故を起こさぬために

交通安全母の会



上里町交通安全母の会 会長
武井 恵美 さん

群馬県生まれ。ご主人との結婚を機に上里町に移住。現在は3人のお子さんの母親であり、上里町立中央保育園母の会の会長を務め、上里町交通安全母の会の会長も兼任している。

変化する意識

主に交通安全の啓発活動を行っている「上里町交通安全母の会」。町内9つの保育園・幼稚園から選出された役員27名で組織されています。

会長を務める武井さんは、就任当初は「大変だろうか。」という不安な気持ちが行先していたそうです。しかし、会の活動や研修会に参加して県内の交通事故の状況を知っていくうちに、「子ども達に還元できる良い経験ができています」と思うようになり、交通安全に対する意識も変わっていったと語ってくれました。

親として会長として

「交通安全運動や啓発活動を行うことにより、一定期間は交通安全に対する意識は高まると思っています。しかし、日々の忙しい生活の中ですぐにその意識は忘れられてしまいます。親として、自分の子ども達に基本的な交通ルールは教えていますが、子ども達がいかにルールを守っても、ドライバーの意識が変わらなければ悲惨な交通事故は無くならないと思っています。地道な活動ではありますが、より多くの啓発活動をおしてドライバーに意識してもらって期間を少しでも長く持つてもらいたいと考えています。」

地域で支える交通安全 スクールガード

地域で守る子供の未来

感謝の気持ち

長年スクールガードとして子ども達の通学路に立ち続けている尾山さん。そんな尾山さんに活動理由を聞いてみました。

「子どもは、未来の使者だと思っています。無限の可能性を秘めている子ども達の未来が交通事故により一瞬で失われてしまうかもしれない。交通事故を無くしたい。ゼロにはならないが、自分たちの活動で少しでも減らすことができればと思っています。50年近く住んでいる上里町への感謝の気持ちから、少しでも手助けができればという思いで取り組んでいます。」

80歳まで

日々の交通指導活動が自分の健康体力づくりにも繋がっていると話す尾山さん。毎朝現地でラジオ体操をして、体をほぐしてから子ども達を迎えているとのこと。

「80歳までは現場に立ち続けて、子ども達の安心・安全を守っていききたい。しかし、担い手がいないことが心配です。声掛けをしているが、なかなか新しい方が見つかりません。スクールガードはボランティア活動です。自由な活動なので気負うことなく気軽に参加してくれる方ができてくれればありがたいですね。」



七本木小学校応援団(スクールガード)
本郷パトロール隊隊員
尾山 賢英 さん

現在76才。東京都生まれで48年前に仕事の関係で上里町に移住。定年退職後、本郷地区の区長を経て、平成19年から小学生の見守り活動を始める。長年、本郷地区交通安全協会に所属し、現在は、七本木支部の支部長として各種行事の交通整理や交通安全の啓発活動も行っている。

行政が取組む交通安全 上里町・本庄警察署

万全の交通安全を目指して

安全な自転車走行を習得！

交通安全子供自転車大会

本大会は、自転車競技を通じて自転車の安全走行に関する知識と技能を身につけさせるとともに、交通安全についての興味と関心を高め、習慣化を図ることにより交通事故防止に繋げることを目的に開催されています。

上里町では平成28年度と平成29年度に七本木小学校が埼玉県大会で優勝し、全国大会にも2年連続で出場しました。また、平成30年度と令和元年度には神保原小学校が埼玉県大会で、2年連続で準優勝するなど、素晴らしい成績を収めています。

今年の6月に行われる予定の次回大会では、神保原小学校と賀美小学校が出場する予定で、昨年の11月から日々熱心に練習に取り組んでいます。町民の皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。



警察車両待機場所に関する覚書を締結



2月13日(木)、町と本庄警察署は、「警察車両待機場所の提供に関する覚書」を締結しました。地域住民に対する犯罪情報、交通事故情報等の提供や注意喚起を行い、地域住民等を事件・事故から守ることを目的としています。

この覚書により、犯罪抑止と交通事故防止の取り組みがより一層強化されることが期待されます。



▶町内4か所で警察車両が待機(不定期)し、町民の方々に注意喚起を行います。

覚書の概要

- (1) 警察車両待機場所の提供
上里町は、町有地の一部(4か所)を警察車両待機場所として提供します。
- (2) 犯罪抑止活動と交通事故防止活動の実施
町と本庄警察署は相互に協力しながら犯罪抑止活動及び交通事故防止活動を実施し、地域住民等の安全と安心を確保します。

上里町の交通事故

上里町では平成28年から交通事故件数は徐々に減少していますが、平成31年1月から令和元年12月までの1年間では135件の事故が起こっており、町内で3日に1度、交通事故が発生している計算になります。

また、埼玉県内での上里町の人身事故発生率が令和元年12月末時点で県内ワースト2位と高い状況です。

私たちができること

交通事故は、大切な命をも失ってしまうかもしれない、非常に恐ろしく悲しいものです。

交通事故に遭わない、起こさないようにするためには、地域での活動は不可欠です。ですが、それだけでは交通事故は無くなりません。一人ひとりが交通事故の悲惨さを再認識し、交通ルールやマナーを守ることが必要です。

大人が率先して交通ルールを遵守し、子どもにも手本を示すことで、子ども達も自然と交通ルールを覚えるようになるのではないのでしょうか。

運転手も歩行者も、未来ある子ども達に「思いやりの気持ち」を持ち、模範となる行動を心掛けましょう。